

令和6年2月5日

早池峰山周辺への防鹿柵の設置の見直し等について

東北森林管理局 計画課

1. 背景

平成30年度より岩手県が主催するシカ対策部会により、岩手県及び三陸北部森林管理署、岩手南部森林管理署遠野支署の3者でそれぞれ防鹿柵を設置してきた。以降、令和3年度まで設置箇所を追加し、令和5年現在、総延長1,540mとなった。この中には、シカが防鹿柵内に侵入するなど、当初の目的を果たしていない柵もある一方で、新たに防鹿柵を設置することについて検討を要する箇所もある状況である。

また、現在、防鹿柵の設置、管理については、岩手県、三陸北部森林管理署、遠野支署の職員等が行っているところであるが、予算的にも労力的にも厳しい状況であると聞いている。

2. 課題

将来にわたって早池峰山周辺の貴重な自然環境を保全するには、効率的で効果的な防鹿柵設置が必要な状況。現在、防鹿柵を設置してから6年が経過し、設定当初から様々な状況が変化しており、以下のことについて早急に検証等を行い、令和7年度から対策を講じることが必要と考える。

また、実務面では現在、県、森林管理局がそれぞれ防鹿柵の設置等を行っているが、今後、防鹿柵の効果の検証、見直しや管理を効果的、効率的に行う体制づくりが必要と考える。

3. 検討内容

- ① 現在、設置している防鹿柵の効果や必要性の検証と、検証結果に基づく設置箇所の見直し。
- ② 新たに防鹿柵の設置が必要な箇所の検討。

【参考】防鹿柵や希少種の現状等について（別添資料参照）

- ① 三陸北部森林管理署で設置している小田越の周囲長 440m の柵については、当初、シカの餌場となる草原が広がっていたことから、下方にある岩手県設置の 340m の柵と併せ、山頂部へのニホンジカの定着防止の観点及び餌場へのニホンジカの定着防止を目的に設置してきた経緯があるが、現在、山頂部にもニホンジカが侵入している状況である。

柵内にもニホンジカが侵入（フン、食痕を確認）しているだけでなく、希少種はほとんどなくなっており、当初の設置目的を果たしていない状況。

- ② 昨年度のシカ対策部会で、門馬登山道沿いに固有種であるヤブヒョウタンボクの生育地が確認されたが、既にニホンジカの食痕が見られ、対策を行わない場合、近い将来に消失する可能性があることから対策が求められ、現在は宮古市の巡視員が簡易な防鹿柵を仮設し対応している状況。

現在、門馬登山道沿いに設置している 70m の防鹿柵については、柵内に守るべき希少種が少ないことから登山道反対側にその一部を移設するとともに、ヤブヒョウタンボクが生育している箇所（5 ページの写真ア、イ）に移設してはどうか。

令和5年度 早池峰山植生保護柵 設置位置図

● 岩手県 ● 三陸北部署 ● 遠野支署

(この他、県道25号線沿いに岩手県が3箇所設置)

岩手県: 750m、三陸北部署: 540m、遠野支署: 250m、

合計1,540m設置

標高900m付近
70m設置 (H30)

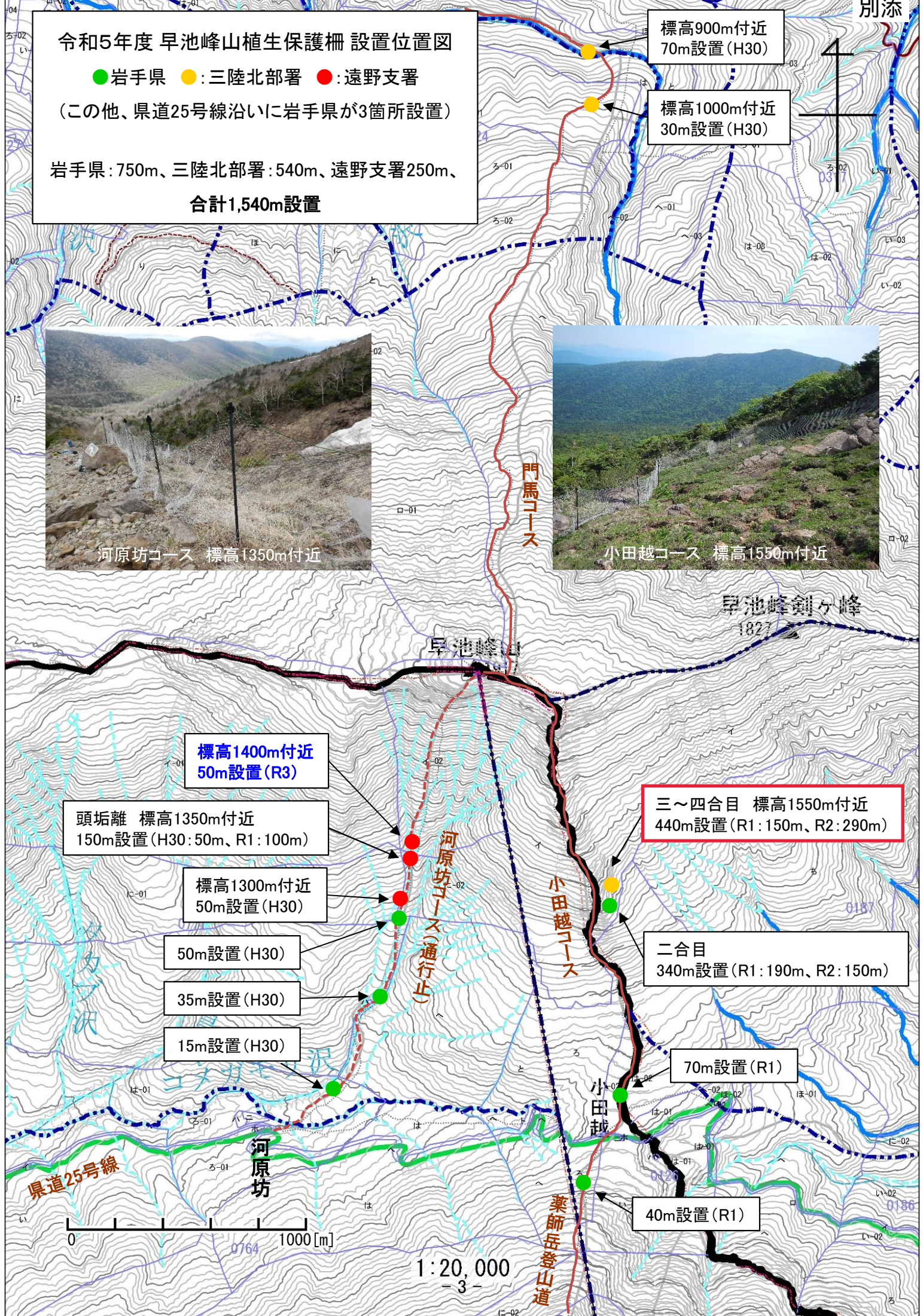
標高1000m付近
30m設置 (H30)



河原坊コース 標高1350m付近



小田越コース 標高1550m付近



早池峰剣ヶ峰
1827

早池峰山

標高1400m付近
50m設置 (R3)

頭垢離 標高1350m付近
150m設置 (H30: 50m、R1: 100m)

標高1300m付近
50m設置 (H30)

50m設置 (H30)

35m設置 (H30)

15m設置 (H30)

三～四合目 標高1550m付近
440m設置 (R1: 150m、R2: 290m)

二合目
340m設置 (R1: 190m、R2: 150m)

70m設置 (R1)

40m設置 (R1)

県道25号線

河原坊

小田越コース

薬師岳登山道

0 1000 [m]

1:20,000



植生の荒廃

- ・裸地化の進行



シカ食害

(希少種5種が岩場の下に単体で残るのみとなっており、群落はない。)

確認された種

- ・ナンブトウウチソウ(写真)
- ・ミヤマヤマブキショウマ
- ・ミヤマアケボノソウ
- ・チシマフウロ
- ・ミヤマシオガマ



シカの痕跡

- ・シカの糞塊は柵内の随所で確認される。

門馬コース沿いのヤブヒョウタンボクの現況(R5.8.29撮影)

東北森林管理局計画課



ヤブヒョウタンボク位置図(略図)



ア. ヤブヒョウタンボク

・食害あり。簡易的な防鹿柵を設置。



イ. ヤブヒョウタンボク

・食害あり。簡易柵の設置はなし。